

自校の「特色」を明確化し、 生徒が感じる「魅力」を高める

普通科を含むすべての高校に「生徒を主語にした」魅力的な学校づくりが求められている。

なぜ、高校の特色化・魅力化が必要とされているのか。

どのようにそれを推進していけばよいのか。

神奈川県立横浜翠嵐高校の元校長で、全国普通科高等学校長会

事務局長として全国の高校を知る佐藤到先生と

普通科改革の先駆的な取り組みの経験を持つ

長崎県立佐世保南高校の舟越裕校長に、

VIEW next 編集部のおき・あやこが話を聞いた。



長崎県立
佐世保南高校
校長
舟越 裕



全国普通科高等学校長会
事務局長
佐藤 到

社会の変化や多様な生徒に
応えられる特色や魅力を

青木

2022年度から文部科学省が

推進している「新時代に対応した高等

学校改革推進事業」を始めとして、近

年、「生徒を主語にした」高校教育の

実現に向けて、すべての高校において

特色・魅力ある教育の実現が求められ

ています。26年2月に文部科学省が示

した「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスク

ール構想」(*)においても、専門高校

改革や普通科改革を通じて高校の特色

化・魅力化を図っていく必要性や、小

規模校の特色化・魅力化のための教育

条件の改善等が示されています。なぜ、

高校の特色化・魅力化が必要とされて

いるのでしょうか。

佐藤 現在、高校等への進学率は約99

%に達し、その約7割の生徒が普通科

に在籍しています。ただこれまで、普

通科の教育内容は中学生や保護者には

高校ごとの違いが分かりにくく、「行

きたい高校」ではなく、「入れる高校」

を選んでいた生徒が少なくなかったの

ではないでしょうか。しかし、少子化

が進み、多くの自治体で公立高校の学

区が撤廃される中、各高校は自校の特

色・魅力を中学生や保護者に伝え、選

ばれる高校になる必要性が生じてきま

進行



VIEW next
編集部
青木 彩子
あおき・あやこ

した。また、実社会につながる生きた
授業の実践も、特色の1つとして高校
に求められています。「N-E.X.T.(ネク
スト)ハイスクール構想」が示された
のも、Society 5.0に対応できる、文
理にとらわれない幅広い教養等を備え
た新しい価値を創造する人材の育成に
高校も寄与することが期待されている
からです。

舟越 長崎県では、これまでは多くの

生徒、保護者が、公立高校の普通科を

進学先の第一候補として考えていまし

た。しかし近年、私立高校が新コース

の設置や部活動の強化などを通じて特

色化を図り、私立高校の授業料も無償

化されたことで、生徒、保護者にとっ

て私立高校の魅力が高まりました。ま

た、生徒の学力や希望進路などが多様

化する中で、特に公立高校は、これま

でと同じような横並びでよいのかと社

会から問われているように思います。

長崎県では少子化が進み、高校の再編

統合が進む見通しですが、高校の数の

調整だけではなく、各地域にどのよう

な高校を残し、創っていくのかを考え

ていく必要があると思っています。

* 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想～」

特色は学校と教師がつくるもの、
魅力は生徒が感じるもの

青木 現場の先生方は、特色化・魅力化の必要性は感じていられるけれども、その推進には課題があるようです（P.3図2・3）。先生方の声から、その課題の真因の1つに、特色化・魅力化はそれぞれ何を意味するのか、校内で共通理解が図れていないことがあるのではないかと感じました。高校の特色化・魅力化はどのようなものとして捉えればよいと思われますか。

佐藤 私は学校の「特色」は、学校自身や設置自治体が地域のニーズなどを踏まえて骨組みを設計し、授業などの日々の教育活動を通じて教師たちがつくり上げていくものだと思っています。一方「魅力」は、特色ある教育活動を通じて生徒たちが感じる楽しさや



さとう・いたる 神奈川県立松陽高校、同・横浜翠嵐高校で校長を務めた後、神奈川県立総合教育センター顧問、横浜国立大学教職大学院連携教授を歴任。22年度から現職。教諭時代の担当教科は地理歴史科・公民科（地理・福祉科）。

学びがい、満足感だと考えています。

青木 今のお話を踏まえると、自校の特色化・魅力化は、「自校の独自性が明確か」「生徒や保護者・地域が満足しているか」という2つの視点で整理できそうです（図1・2）。

舟越 私が24年度3月まで3年間校長を務めた長崎県立松浦高校は、22年度にそれまでの普通科を、地域課題などの探究に重点的に取り組む地域科学科に改編しました。私たち教師が力を入れたのは、地域科学科とはどのような特色を持った学科なのかを生徒や保護者に伝えることでした。つまり、図2の取り組み③の状態から取り組み①の状態にすることを目指したのです。また、私は、教育活動自体には明確な独自性がない中でも、学校が持つ自由な校風のおかげで生徒たちを引きつけていた、取り組み②のようなことを行っている学校に勤務したこともありまし



ふなこし・ひろし 長崎県立佐世保北高校で進路指導主事として同校の進路指導をけん引。同・佐世保西高校で教頭、同・松浦高校で校長を務め、25年度から現職。教諭時代の担当教科は地理歴史科（日本史）。

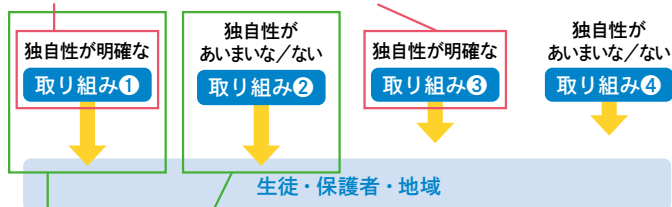
図1 特色化と魅力化の意味

	特色化	魅力化
意味	自校の独自性を明確にすること	「この学校に来てよかった」「この学校があつてよかった」と生徒・保護者・地域が満足している状態をつくること
留意点	- 他校との比較に基づく - 客観的な評価が可能	- 生徒・保護者・地域の人々一人ひとりの評価に基づく - 主観的な評価によるもの

※取材を基に編集部で作成。

図2 特色化と魅力化の関係

特色化できている（自校の独自性が明確になっている）



魅力化できている（取り組みの価値が届き、生徒・保護者・地域が満足している）

- ・取り組み①は、独自性が明確で（＝特色化）、生徒・保護者・地域が満足している（＝魅力化）理想的な状態。
- ・取り組み②は、独自性があいまいだ（または、ない）が、生徒・保護者・地域が満足しているものなので継続すべき取り組み。特色として自覚したり、独自性を明確にしたりすれば、一層魅力を高められる可能性がある。
- ・取り組み③は、生徒・保護者・地域にはその価値が届いていないが、独自性が明確なので、改善の余地あり。

※取材を基に編集部で作成。

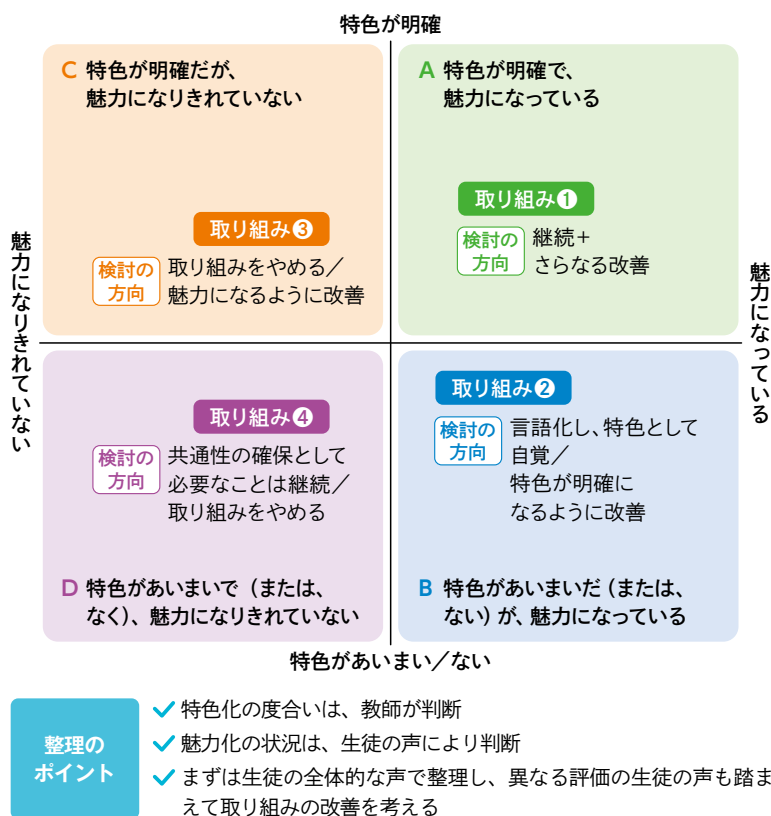
た。取り組み①や取り組み②のようなことを行っている学校では、生徒が「自分に合った学び、高校生活だ」などと満足感を持ち、それを家庭や地域で語ることで、中学生やその保護者も魅力を感じるようになるのだと思います。

佐藤 例えば成果などが数値として表れにくい探究学習の価値について、生徒の前にまずは教師が、自校の探究学習のよさを深く理解しておくことが不可欠です。探究学習を推進するために学校設定教科・科目を設ける学校もあります。探究学習のよさを深く理解していただくことが不可欠です。探究学習を推進するために学校設定教科・科目を設ける学校もあります。探究学習のよさを深く理解していただくことが不可欠です。探究学習を推進するために学校設定教科・科目を設ける学校もあります。

が何を、どのように学ぶのかを、教師たちが熟議し、十分に理解しながらつくり上げるほど、生徒は探究学習に魅力を感じるようになると思います。

舟越 松浦高校在任中、先生方と話し合い、地域に対する理解を深める学校設定科目「松浦学」を設定することにして、さらに長崎大学教育学部と連携し、数学、英語などの6教科で、地域の素材を活用した公開授業を実施しました。そうした取り組みを通じて私たち教師は、地域科学科とはどのような学科なのかを深く理解していったよう

図3 自校の取り組みの現状を整理する4象限マトリクス



※取材を基に編集部で作成。

に思います。現在の勤務校である長崎県立佐世保南高校は、23年度に普通科とは別に文理探究科を設置しました。本校においても、総合的な探究の時間を軸にしつつ、カリキュラム全体のあり方を検討し続けることで、文理探究科の特色をより鮮明に打ち出していくことができると思っています。

佐藤 私は、自校の特色を生徒や保護者に伝える教師の言葉を大切にしています。かつて校長を務めた神奈川県の立横浜翠嵐高校では「高校生としての覚悟」を生徒に求め、「生徒の心に火をつける授業」を全教師が標榜していました。学校として大切な理念、目標を日々生徒と接する教師が言葉にし、意識し続けることで、生徒の意識変容を促し、学びの質を高めるのと同時に、それを魅力として捉える生徒の「構え」をつくれるのだと思います。

舟越 私は26年5月に横浜翠嵐高校を訪問したのですが、「高校生としての

青木 実際に自校で特色化・魅力化を推進していく上でのポイント、そして管理職に求められる役割や視点について教えてください。

佐藤 自校の取り組みについて、特色が明確かどうか、それが生徒にとって魅力になっているかを整理することから始めるとよいと思います。例えば、図3のような4象限マトリクスを用いて、自校の特色や魅力となっていると思う取り組みをプロットしてみます。取り組みの現状を可視化することで教師間の現状認識がそろい、改善の方向性についても議論がしやすくなるでしょう。ただし、同じ取り組みであっても、生徒一人ひとりが感じる魅力やその度合いは異なることや、一人ひとりの「多様性への対応」と併せて、社会

教師のやりがいがある
自校の特色や魅力を高める

「覚悟」という言葉を、管理職だけでなく、若手・中堅の先生が口にすることも聞き、すごいことだと思いました。

佐藤 公立高校には様々な経験、価値観を持った教師が異動してきます。だからこそ「本校のスタンダードはこれです」と、管理職が力強いメッセージを発信し続けることが重要です。

で生きていくために必要となる資質・能力を共通して身につける「共通性の確保」も学校には求められていることについて、教師間で共通認識を図ることが重要です。日々教室で多様な生徒に向き合いながら、生徒一人ひとりの満足感を高めつつ、共通性を確保していくために奮闘している先生方への敬意を管理職は忘れてはいけません。先



図4 「本校でどのような生徒を育成するか」プロジェクトの議論の成果

■本校で育成する資質・能力

・自己を向上させる力

意志力	主体的・積極的に物事にあたり、自分の考えをもって最後までやり抜く力
徹底力	健康な心身で自分を律しつつ、当たり前前を当たり前に行うことができる力
成長力	自分の現状を把握し調整しながら、確かな学力を培い、将来を展望する力

・他と協力し やり遂げる力

観察力	周囲の人・環境に関心を持ち、自分以外のことを知ろうとする力
共感力	多様な考えを受け止め、他者との関係性を築きつつ、物事を俯瞰的に捉える力
協働力	自分と他者を尊重し、共に物事を成し遂げる力

・物事を探究し 挑戦する力

洞察力	社会に対する関心を持ち、その状況を多面的に分析、考察できる力
活用力	情報等を選択・比較しながら、集団や社会のために活用していく力
創造力	既存の知識・経験を組み合わせ、新しいアイデアや解決策を生み出す力

■26年度の各教科における取り組み(抜粋)

・国語科

成長力	予習・復習を重視しつつ、生徒の学力に合わせた教材の活用と展開をする。
共感力	班別活動における資料作成と相互発表および相互評価を展開する。
洞察力	評論文や意見文の読解、および意見文の作成活動を展開する。

・地理歴史科・公民科

成長力	自主的な課題を設定し、取り組む。
協働力	共通のテーマ・課題に対し、多面的に考察し、合意形成を図る。
洞察力	なぜその歴史的事象・社会的事象が生じたかを考えさせる発問を行い、発表する。時事ニュースを授業の中で適宜動画で紹介する。



各教科における取り組みが記されている全体は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



※学校資料を基に編集部で作成。

生方が多様な生徒を受け止め、新しい教育活動にも安心して挑戦していけるよう、先生方の心理的安全性が確保されているか、そして心の中に「余白」があるかどうか、ぜひ心を配っていただきたいと思います。

舟越 コーディネーターや学校に関心を持つ地域の人たちなどを、生徒を主語にした学校の未来をともに考える仲間として、その力を借りることも重要です。そうした方たちも交えて、図3

(P.6)などを基に、これからの学校のあり方を議論できればよいですね。
佐藤 多くの高校が小規模化し、生徒数も教師数も減少していますが、学校の業務は減らず、新しい課題も生まれています。教育力の向上は、学校だけで取り組むには限界があり、外部との協働が一層求められると思います。
舟越 特色化や魅力化の推進では、自校の教育目標や育てたい生徒像を確認することがその前提となります。管理

職はビジョンを示しますが、具現化していくのはミドルリーダーが中心の組織です。もちろん、特色や魅力のある教育課程を編成したり、生徒に育みたい資質・能力を具体的な教科や授業に落とし込んだりするためには、管理職が各教科の学習内容がある程度理解しておかなければ、先生方の課題意識に合った指針は出せません。私ももっと勉強しなければと思います。

佐藤 ミドルリーダーに任せる際には、どのように仕事を任せるかが極めて重要です。丸投げにも過干渉にもならないようにするためには、いつまでに、何を、どこに注意してやってほしいのか、要点を端的に言語化する力が管理職には求められると思います。

舟越 自分の学校に愛着があれば先生方は主体的に動き始めますし、愛着を持つてもらうためには、管理職が先生方に任せることが大切です。佐世保南高校では、「本校でどのような生徒を育成するか」プロジェクトを立ち上げ、育成を目指す資質・能力と、その育成のための授業のあり方を、各教科・分掌などの副主任が中心となって議論をし、「26年度 南高で育成する資質・能力」としてまとめました(図4)。学校のあり方を教師が主体的に考えていくようになれば、おのずと特色や魅力も高まっていくと私は思います。

青木 佐藤先生からは特色化・魅力化をけん引する管理職の先生方にメッセージを、舟越先生からは管理職としての今後の展望をお話しいただけますか。

佐藤 全国の校長先生と話す中で、私はすべての高校に特色・魅力はあると確信しています。だからこそ、まずは学校内で現状を言語化して共有することで、自校の特色や魅力を捉え直すことができますし、学校間でいろいろな知見を交換することで、さらに各高校の特色化・魅力化が進むはずですね。そして、生徒自身が自校の魅力を発信することで、中学生や保護者・地域にもそれが伝わり、社会の高校に対する見方がより豊かになると思います。

舟越 現任校のある佐世保市は重工業が市の基幹産業ですから、理系人材の育成は文理探究科を設置する本校の使命の1つだと私は考えています。そのような考えを先生方に伝えるとともに、先生方からも本校をどのようにに発展させていきたいかを聞き、ともに学校づくりをしていきたいと思っています。

佐藤 どの高校にも、生徒を多彩な学びや進路に導ける可能性があります。自校のこれまでのよさを土台として、生徒を主語にした特色化・魅力化を推進していただきたいと思います。
青木 ありがとうございます。